

# 2017年度 社会福祉法人 歩む会福祉会 事業報告

2018年3月31日

## 1. 各事業所の運営

あゆみ作業所 (生活介護・日中一時支援)

所在地 深谷市柏合804-1

ねぎぼうず作業所 (生活介護)

所在地 深谷市榛沢新田6-1

山ばと作業所 (生活介護)

所在地 本庄市四季の里2丁目9-6

スワン深谷 (就労継続支援B型・日中一時支援)

所在地 深谷市宿根524-1

美里ホーム (共同生活援助・短期入所)

所在地 美里ホーム 美里町北十条10

針ヶ谷ホーム 深谷市針ヶ谷767-2

歩む会短期入所 深谷市針ヶ谷767-2

大きな樹 (放課後等デイサービス)

所在地 本庄市栗崎660-1

あゆみ相談支援センター (特定相談支援)

所在地 深谷市柏合804-1 (あゆみ作業所内)

## 2. 役員等の構成

評議員	理事	監事
7名	6名	2名

### 3. 理事会・評議員会開催状況

#### 理事会

開催日	審議事項
第101回 2017年5月29日	第1号議案 2016年度事業報告（支援方針総括含む） 第2号議案 2016年度決算 第3号議案 監事監査報告 第4号議案 経理規程の変更 第5号議案 就業規則の変更 第6号議案 重要事項説明書の改定 第7号議案 補正予算 第8号議案 施設整備積立金 第9号議案 新役員候補者 第10号議案 評議員会の招集
第102回 2017年6月19日	第1号議案 理事長の選任 第2号議案 公印管理規程 第3号議案 公印管理者の選任 第4号議案 65歳を迎えた管理職の賃金について
第103回 2017年8月21日	第1号議案 生活介護 山ばと作業所 建設事業計画見直しについて 第2号議案 共同生活援助 美里ホーム 事業計画見直しについて 第3号議案 評議員会の招集事項について
第104回 2017年11月10日	第1号議案 グループホーム建設に係る事業計画 第2号議案 就業規則の変更 第3号議案 補正予算 第4号議案 経理規程変更 第5号議案 定款変更（土地取得により基本財産記載） 第6号議案 定款細則変更 第7号議案 評議員会の招集について
第105回 2018年3月20日	第1号議案 補正予算 第2号議案 事業計画 第3号議案 次期当初予算 第4号議案 就業規則の変更 第5号議案 評議員会の招集について

評議員会

開催日	審議事項
第54回 2017年6月19日	第1号議案 2016年度事業報告（支援方針総括含む） 第2号議案 2016年度決算 第3号議案 補正予算 第4号議案 理事及び幹事の選任
第55回 2017年8月28日	第1号議案 生活介護 山ばと作業所 建設事業計画見直しについて 第2号議案 共同生活援助 美里ホーム 事業計画見直しについて
第56回 2017年11月17日	第1号議案 グループホーム建設に係る事業計画 第2号議案 補正予算 第3号議案 定款変更（土地取得により基本財産記載）
第57回 2018年3月29日	第1号議案 補正予算 第2号議案 事業計画 第3号議案 次期当初予算 第4号議案 就業規則の変更

4. 職員配置状況・人事異動状況

2017年10月1日現在

	あゆみ作業所	ねぎぼうず 作業所	山ばと作業所	スワン深谷
職員数	25	10	7	9
採用者	1	0	1	1
退職者	0	1	1	1

	歩む会 美里ホーム	大きな樹
職員数	8	11
採用者	0	1
退職者	1	0

## 5. 事業所利用者状況

2018年3月31日現在

	あゆみ作業所	ねぎぼうず 作業所	山ばと作業所	スワン深谷
定員	35	20	20	20
現員	39	22	15	14
入所者	0	0	0	1
退所者	1	0	0	0

	歩む会美里ホーム			大きな樹	あゆみ 相談支援センター
	美里	針ヶ谷	短期入所		
定員	9	9	1	20	
現員	8	9	1	19	46
入所者	0	0		3	
退所者	0	0		2	

## 6. 今年度の特徴

社会福祉法の改正に伴い、役員、評議員会、理事会の権限・責任に関わる規程の見直しを行った。「経営組織のガバナンスの強化」として、評議員会を法人の議決機関とし、理事・監事の選任を行った。「事業運営の透明性の向上」「財務規律の強化」として、ホームページを通して貸借対照表、収支計算書、事業報告書、定款や役員報酬等の書類の公表を行った。

山ばと作業所の建設に向けて、国庫補助申請を行った。美里ホームの移転については、年度内の開所を目指して建設の計画を進めたが、県より山ばと作業所建設に係わる国庫補助申請の関係で、財政面の指導があり、建設を延期した。

設備改善については経年劣化による大小の修繕や、耐用年数を越えた設備がそこかしこに目立つようになった。あゆみ作業所では、水漏れが生じていたユニバーサルトイレをUACJ福祉助成金により改修した。

みぬま福祉会の篠崎秀一氏を講師に招いた、きょうされん北部ブロックの学習会「より多くの支援が必要な仲間は作業所に何を求めているか」に参加した。また明海大学の岡貴史氏を講師に招き「障がい者等歯科保健医療について～食べる、飲み込む機能の問題と食支援」と題し、研修会を行った。歩む会の職員合同研修は全障研の竹脇真悟氏を招き、成人期の仲間の発達をテーマに「発達視点で仲間の支援を捉え直す」と題し、研修会を行った。

## 7. 課題に対する取り組み

①仲間の加齢に対応する、健康・生活・仕事の検討と研究をする。

加齢とともに仲間の咀嚼嚥下機能が低下してきているという課題について、摂食嚥下に焦点を当てた研修会を開催した。専門講師を招き行い、映像を交えたわかりやすく興味深い内容で、親や職員だけでなく外部の方にも多く参加してもらうことができた。

②仲間の会、自治活動を発展させる。

事業所ごとに仲間の会が中心となって親睦会や誕生日会、お楽しみ会等を計画した。各事業所の仲間の会の役員が集まり、ボーナス額、販売品目、目標達成までの日程等を決めて取り組み、目標を達成することができた。

③軽度者が労働の中で軸として活動できるようする。

食品加工班では新商品の開発に2名の仲間を起用し、分量やパッケージ、製造方法等について仲間から意見を出してもらい、試作から販売に至るまで職員と一緒に取り組んだ。完成した新商品を販売することで「自分たちにもできた」といった達成感を感じてもらうことができた。また、パレスホテルの焼き菓子コンクールで、あゆみ作業所のマーブルクッキーが敢闘賞を獲得した。力のある仲間が活躍できる場を作り、班の中や作業工程ごとにリーダー的な役割を果たすことができるよう支援し、仲間の力を伸ばしてきた。

④仲間の工賃を上げていく。

収益が前年並みあるいは下がるなど、授産の収益を上げていく課題に対しては全体として厳しい状況だった。年度当初に、各班で収支予算書を作成したが、予算書の数字を月ごとに追っていく面で弱さがみられた。製品の原材料の値上りがあったため、利益率を考えた販売価格の見直しが必要となってきた。

⑤外部指導者を迎えて、クラブ活動等を充実させる。

スポーツクラブの行事発表の際は、講師の方にも一緒に参加していただく等、楽しい雰囲気の中、クラブで一体感を持って活動を行うことができた。

絵画クラブではきょうされんの仲間のアート展に参加し、優秀賞を獲得することができた。絵画作品を見て感想を伝える等、仲間たちの意識が高まってきている。

⑥各行事の指示書、企画書、実施、総括のサイクルを定着させる。

基本のサイクルは定着してきたが、指示書の発出が3か月前までにできないことがあり、企画の開始に遅れが生じてしまうことがあった。

⑦グループホームの土・日開所。土日の日中活動の内容検討を行う。

美里ホームでは、6月より第一日曜日を除き、週末開所したが利用人数は少なかった。針ヶ谷ホームは土日開所に必要な職員を確保することができず、開所にこぎつけることができなかった。

⑧職員研修を行う。中堅職員の指導力のアップをはかる。

今年度の全職員で行うテキスト研修は「しなやかに したたかに 仲間と社会に向き合って」を使い、障害のある方たちへの支援の視点について職員同士で学び合い、支援力の向上に努めた。

研修Ⅰの幹部研修は毎週1回の会議兼研修の中で法人の課題と運営についてキャリアパステキストを使用して研修を行った。研修Ⅱのリーダー研修は毎月実施し、テキスト研修

の各班のリーダーとしての研修も行った。研修Ⅲの職員研修は3班編制で毎月実施し、仲間への支援の実践レポート作成を中心的な課題とした。

⑨山ばと作業所移転・建設について

5月に山ばと作業所建設についての説明会を開き、地域住民の方に受け入れてもらうことができた。埼玉りそな銀行からの融資が決定し、6月に大きな樹隣接地を購入し、開発許可申請、国庫補助申請を行った。開発許可がおりたため、土地周辺にフェンスを設置する等の外構工事を行った。

⑩美里ホーム移転・建設について

針ヶ谷地域に土地を購入し、開発許可申請を行った。建設に向けて、設計やグループホーム利用に関するアンケート調査・入居希望を募ったが、建設延期を余儀なくされ、10月に建設延期についての説明を行った。しかし、グループホーム建設に対するニーズは強く、早急に対応していくことが今後の課題となった。

⑪継続的支援、仲間と家族の生活の困難を支え続ける。(つないだ手を離さない)

加齢に際し、介護や病気等、仲間やその家族をとりまく環境が大きく変化してきている。ショートステイ利用を希望する声が多くなってきた。グループホームのショートステイ拡充や365日のグループホームの開所、またそれを可能にする職員配置等が今後の課題となった。

⑫車両担当者を配置し、毎週一回の車両点検の徹底と、誰もがいつでも快適に乗車できるように定期的な洗車と清掃を実施する。

車両担当者の配置が適切に行えなかったため、十分な点検を行うことができなかった。安心・安全・快適な送迎、車両運行を心がけたが事故も発生してしまった。

⑬労働災害の予防を図る。

仕事によるストレスや労働疾病の予防のため、外部のメンタルヘルス研修に参加した。

## 9. 各事業所の状況

### あゆみ作業所

今年度の定員に対する利用率は94.37%（一日当たりの平均利用者数は33.42人）だった。昨年度（92.04%、同32人）よりわずかに向上したものの、3月末に暮らしの場としてグループホームを希望する方の退所が1名あった。このことには、暮らしの場を求める仲間が、法人のグループホーム不足を理由に分散してしまう危険性を孕んでいるため、早急に対応していくことが今後の課題となった。

その一方で、特別支援学校の作業所説明会を経て実習を行った高等部2年生の2名の方が、強く入所を希望し、卒業後の進路として選択してもらうことができた。

班運営では、年度途中で職員の異動や退職があったことで、職員間にそれを互いに補おうとする気持ちが表れてきた。しかし、班の枠を超えた連携の必要性や重要性は理解

しているものの、他班に積極的に援助を要請したり、声を掛け合って連携して取り組みを行ったりする風土作りはまだ不十分だった。

職員の外部研修は、当該研修に適切な職員を派遣し、その内容について職員会議で伝達研修を行うことで周知することができた。支援力を向上させるために、より具体的な取り組みや、実践に密接した研修を計画していくことが課題となった。

地域交流は、隣接の神社の清掃や散歩途中でのごみ拾い等を、各班の活動計画に盛り込んで実践したり、作業所祭りにいらしてもらったりすることで、深めることができた。

### ねぎぼうず作業所

今年度は新規入所者および実習生の受け入れを行うことができなかった。

運営委員会との合同イベントでは、5月にお楽しみ会・6月作業参観・12月には忘年会を開催し、仲間・親・職員の交流の機会を作ることができた。参加した方からは「仲間一人ひとりの様子を見ることができた。」「親同士の交流が大切だということが良くわかってきた。」と感想をいただいた。

施設設備についてはトイレの防寒対策として温風ヒーターを設置し、仲間が快適に利用できるようにした。

### 山ばと作業所

今年度は新入所者の受け入れはなかったが、年間を通して本庄特別支援学校の実習生を複数人受け入れることができた。

看護師が5月に退職したが、夏には新たに看護師を迎える事ができた。

施設移転・建設に向けて、5月に地域住民説明会、7月に国庫協議書申請を行った。

毎年行っている「秋のフリーマーケット」は、今年度も開催に向けて準備を進めたが、悪天候のため中止になった。天候に左右されるため、台風の時期を避けるなど開催時期の検討が今後の課題になった。

今年度もシクラメン店頭販売を行い、地域の方に多く足を運んでもらうことができた。その際に仲間の様子や作業所の様子を見ていってくださる等、作業所を地域の方々に知っていただくよい機会となった。

### スワン深谷

今年度も新しいスタッフを本庄特別支援学校より1名迎えることができた。家族からの要望があり、スワンベーカーリー・スワン工房のどちらかを主たる所属班にしつつも、他の班の活動にも参加できるようにした。また職員間で作業等、班を越えた連携を図ったことで、他の班のスタッフとの関わりや話題が増え、スタッフについてこれまで以上に深く知る機会に繋がった。

店舗運営を中心とし、行政や自治会の様々な依頼やイベントにも積極的に参加した。その中で施設の情報や取り組みを幅広く知ってもらえるよう情報発信に努めた。また、埼玉県立本庄高校で販売させていただけることになり、学校側からも「生徒と障害者との関わりを広げる良い機会になった。」等、感想をいただくことができ、福祉事業所としての活動を知ってもらう機会にもなった。

健康面については、家族と密に連絡を取り合い状況把握に努めた。また、課題の多いスタッフに対しては通院同行も行った。日々の様子や今後の対応について指導を受けたことで、施設での実践に生かすことができた。

施設設備については、プレハブ冷凍庫の修繕や洗浄機等の故障があり、経年劣化による故障が多くあった。

### 美里ホーム

前年度より、美里ホーム建設に向けてプロジェクト会議を行ってきたが、山ばと作業所建設に係わる国庫補助申請との関係で、建設は延期になった。10月上旬に利用者と利用希望者を対象に説明会を開き、建設延期についての説明を行った。週末に帰省することが困難な利用者や家族のニーズに応えるため、6月より美里ホームは第一日曜日を除き開所した。しかし、週末の利用者数が少ないため、本人や家族に利用日数を増やしてもらえるようお願いをした。

短期入所（定員1名）のニーズが高まり、利用登録者数が増えてきた。

### 大きな樹

今年度は3名の新規利用者を受け入れることができた。利用希望者からは「インターネットを見て連絡しました。」という声も多くあり、新規利用者向けに活動内容や事業所の特徴をホームページに掲載する等、外部への情報発信をより強化していくことが今後の課題となった。

職員間の意思疎通や情報共有を図るため、定期的に職員会議やケース会議を行った。今年度は埼玉・障害関係法人合同職員研修に参加し、作成した実践レポートをもとに職員会議やケース会議等で支援の振り返りを行うよい機会となった。

ボランティアと定期的に連絡を取り、行事や長期休業中の活動等、多くの方に協力してもらうことができた。大学等にボランティア依頼するが、新規ボランティアの獲得にはつながらなかった。

7月に特別支援学校の先生や地域の方を招いて交流会を行った。皆で昼食や流しそうめんイベントを楽しみながら児童について話をする等、交流を深めることができた。

### あゆみ相談支援センター

約46人の計画相談を行ってきた。担当職員の他事業所応援等もあり、支援計画の作成に十分な時間をとることができなかった。また、計画作成事務に要する時間を短縮するため、専用ソフトを導入した。

## 9. 太鼓クラブ等余暇活動の充実、発展。

歩む会太鼓サークル「夢ひびき」は、2003年9月より結成し、今年度で14年目を迎えた。月一回土曜日の稽古も定着し、仲間が率先して太鼓の準備から片付けまでを行えるようになった。

毎年11月に行われている埼玉県太鼓民舞サークル連絡協議会主催の発表会が、来年20周年を迎える為の準備期間に入り、発表会が中止になった。そのため、何か取り組



みが出来ないかと話し合い、12月9日（土）に、初めてサークル独自の行事として、葛西臨海公園バスツアーを計画した。その際、支援が必要な仲間もいたため、担当外の職員に支援応援依頼を行った。

## 10. 障害を理解し、文化を広げる活動を行う。

ホームページに法人内各事業所の様子等を掲載し、歩む会の活動や願いを発信することに力を入れてきた。

市町村で開催する文化作品展やスポーツ交流会等の文化的取り組みに参加し、製品や展示にふれる機会を作った。同時に、地域の方に仲間の様子を知ってもらえるよう、福祉健康祭りや各種イベント、他事業所が開催する行事等にも参加した。障害者施設での参加は少ないが埼玉工業大学で行われた「ものづくり博覧会」等、地域の行事にも積極的に参加した。

県南で毎年開催されているクッキーバザールを県北でも行おうという趣旨で、スワンベーカリーで深谷ミニクッキーバザールを開催した。県内地域の他事業所にも出品していただき、他事業所の作業所製品のクオリティーの高さを、実感する機会となった。また、県南の作業所製品は、県北ではあまりお目にかかる機会がないため、仲間、職員をはじめ来店されたお客様にも知っていただく機会となった。

## 11. 年間行事

4月	15日（土）	合同入所式 内科相談
	29日（土）	深谷花フェスタ（～30日）
5月	20日（土）	あゆみ作業所祭
	24日（水）	パイロット音楽祭
6月	1日（木）	スワン周年祭（～3日）
7月	3日（月）	法人設立記念日
	8日（土）	大きな樹親子交流会
	11日（火）	仲間のボーナス支給日
8月	17日（木）	大きな樹旅行（～18日）
	26日（土）	四季の里納涼祭
9月	14日（木）	作業所一泊旅行（～15日）
	21日（木）	作業所一泊旅行（～22日）
10月	7日（土）	深谷市ふれあいスポーツ大会
	15日（日）	本庄ふれ愛祭り ※雨天中止
	21日（土）	秋のフリーマーケット ※雨天中止
	28日（土）	福祉健康祭り（～29日）
11月	11日（土）	福祉の店
12月	12日（火）	仲間のボーナス支給日
3月	1日（木）	嚙下研修
	3日（土）	ねぎぼうず祭り